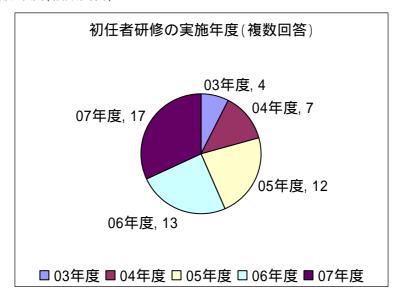
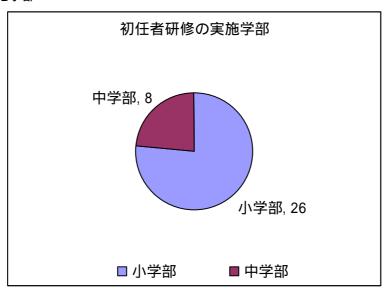
初任者研修に関わるアンケート集計のまとめ 同じクラス・学年・教科だった方(33 名回答)

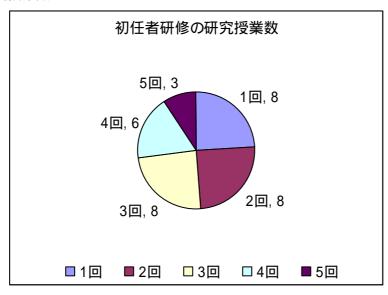
1. 初任者研修の実施年度(複数回答)



2. 初任者研修の実施学部



3. 初任者研修の研究授業数



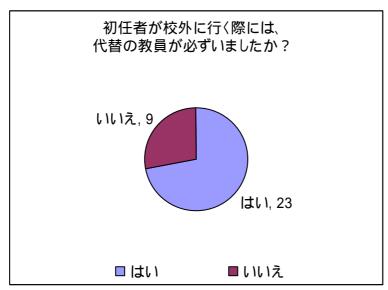
.

4. 初任者研修についての自由記述のまとめ

研修の内容を充実したものに

学校内で、初任者研修の位置づけを、はっきりとしてほしい。初任研の位置づけが明確でないため、どのような立場で関わるべきかがあいまい。現状をはっきりさせ、初任者に対して配慮することも必要休憩時間・年休の問題。時間数のための研修になっているため、休憩や年休がとれない校内研修は必要だが、研究授業ばかりでなく、日々の実践のなかに研修をする時間がほしい計画書・報告書のため、研修が忙しくなっている。初めから完成を求めるのではなく、長い目で育てたい初任者がクラス・学部に入ることで、全体が活性化した。研究授業の話し合いができてよかった拠点校指導教員と校内指導員の分担がわからず、初任者が指導の違いで板ばさみになっていた。児童の実態がつかめないと指導できないため、一般校とは異なるシステムが必要では。

5. 校外研修について

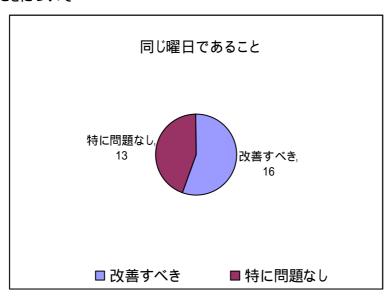


初任者が校外研修に行く際に、71.9%のクラスには、必ず代替の教員が入っていた。臨任の人数や都合、 校内操作などにより、クラスに入らないこともあった。

クラスに代替の教員が入らなかった時は、学部・学内で調節し、応援体制をとった。

6. 校外研修の設定について問題点

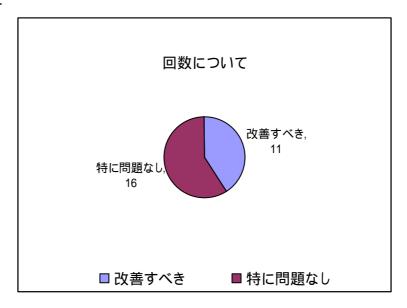
(1) 同じ曜日であることについて



55.2%が、同じ曜日に校外研修があることに問題点を感じていた。曜日が固定されることで、同じ教科の日に抜けることになってしまう問題が見られた。このため、その曜日の授業が一年間未経験になってしまうこともあった。特に、生活単元などが重なると、行事の事前学習などに参加できなくなることは課題であるとの意見が出されていた。

同じ曜日になることで、授業や行事の設定などに支障が出ている反面、44.8%は特に問題は見られていなかった。校外学習の体制作りや、代替の教員にとっては見通しが持ちやすいとのメリットも見られた。

(2) 回数について

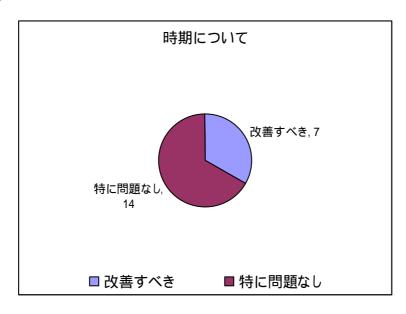


回数については、59.3%が特に問題なしと考えていた。初任者は研修が必要であり、回数を重ねることで 複数の教科の改善につながっていたからと述べられていた。

一方、40.7%は改善すべきと考えていた。それは以下の3つの理由が見られた 年間の回数が多すぎるため クラスのことを話したり、教科を準備したりする、余裕がなくなっていたため

グラスのことを話したり、教科を準備したりする、余裕かなくなっていたため 現場で学ぶことが大切なため

(3) 時期について



時期については、66.7%が特に問題なしと考えていた。それは、必要な時期に行われており、基礎的なことを学ぶ機会となっていたからとの意見が多かった。また、年間に偏りなく行われているとの意見も見られた。一方、33.3%は、問題があると考えていた。代替の教員が来てくれているため、大きな問題はないとの意見も見られるが、以下の3つがあげられていた。

4月、5月は忙しい時期であるが、校外の研修も多く設定されているため 行事と重なったことがあったため 2学期は、授業案や評価と重なったため

(4) その他

初任の時期の研修ばかりでなく、2年目.3年目に分散して研修の機会をもつようにしたらどうか。 代替の教員が来てくれれば、特に言うべきことはない。